

防火実習



2月7日と9日に防火実習を行いました。

海曹予定者課程における防火実習の目的は、防火作業の一般的知識を理解し、簡単な消火作業の指揮ができることであり、新入隊員の防火実習が火に対する恐怖心をなくすことが主な目的であることに対し、ランクアップした内容の実習だと言えます。

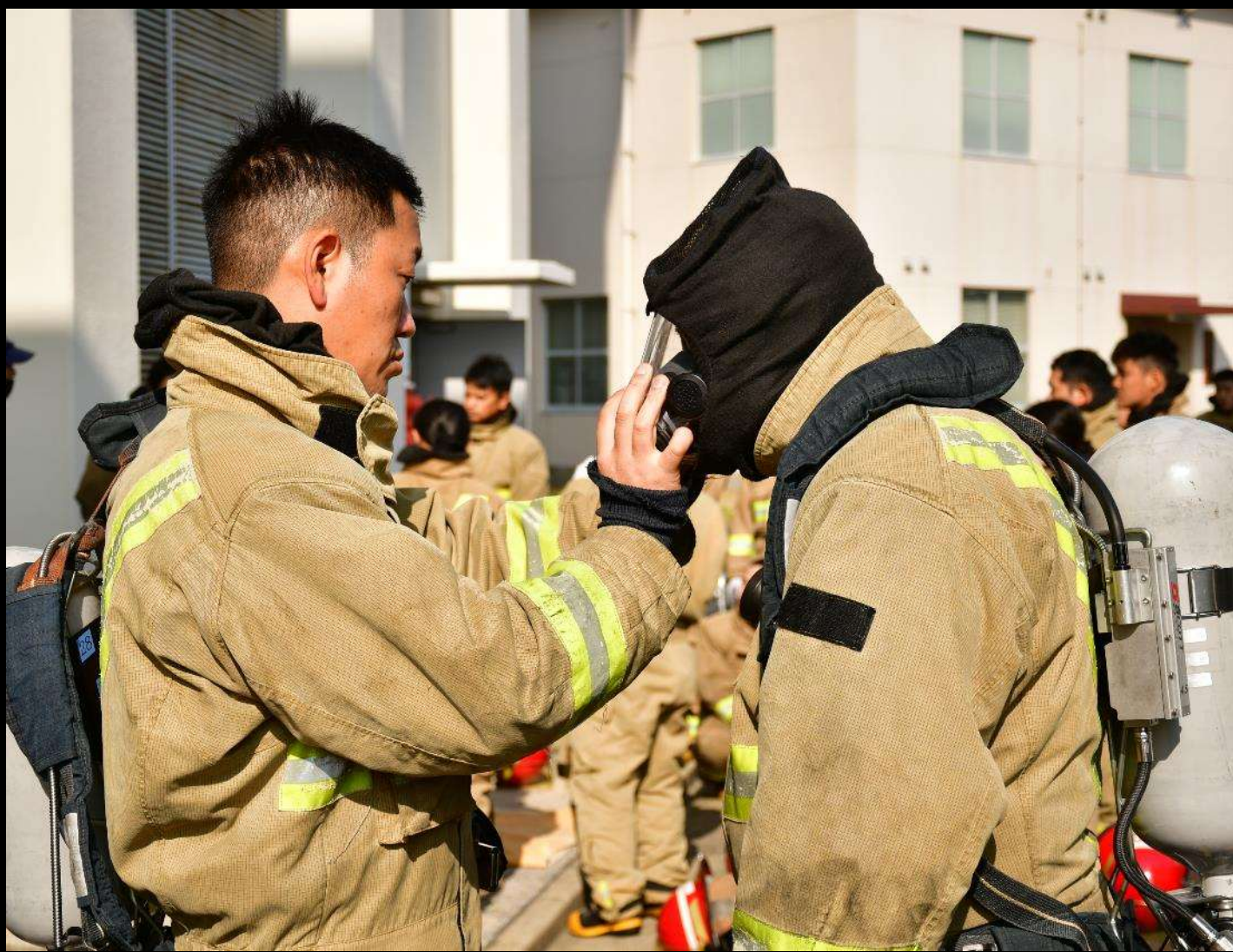
午前中は防火器材の取扱い要領と午後に実施する護衛艦機械室の消火作業のリハーサル（火をつけずに実際の流れで実施する訓練）を行い、午後、実際に火をつけての消火訓練を実施しました。





上の写真の器材は、SCBA（自給式呼吸器）という高圧空気容器（シリンダ）から供給される高圧空気により、装着者が周囲の空気とは無関係に呼吸できる器材で、火災現場に進入する者が着用します。

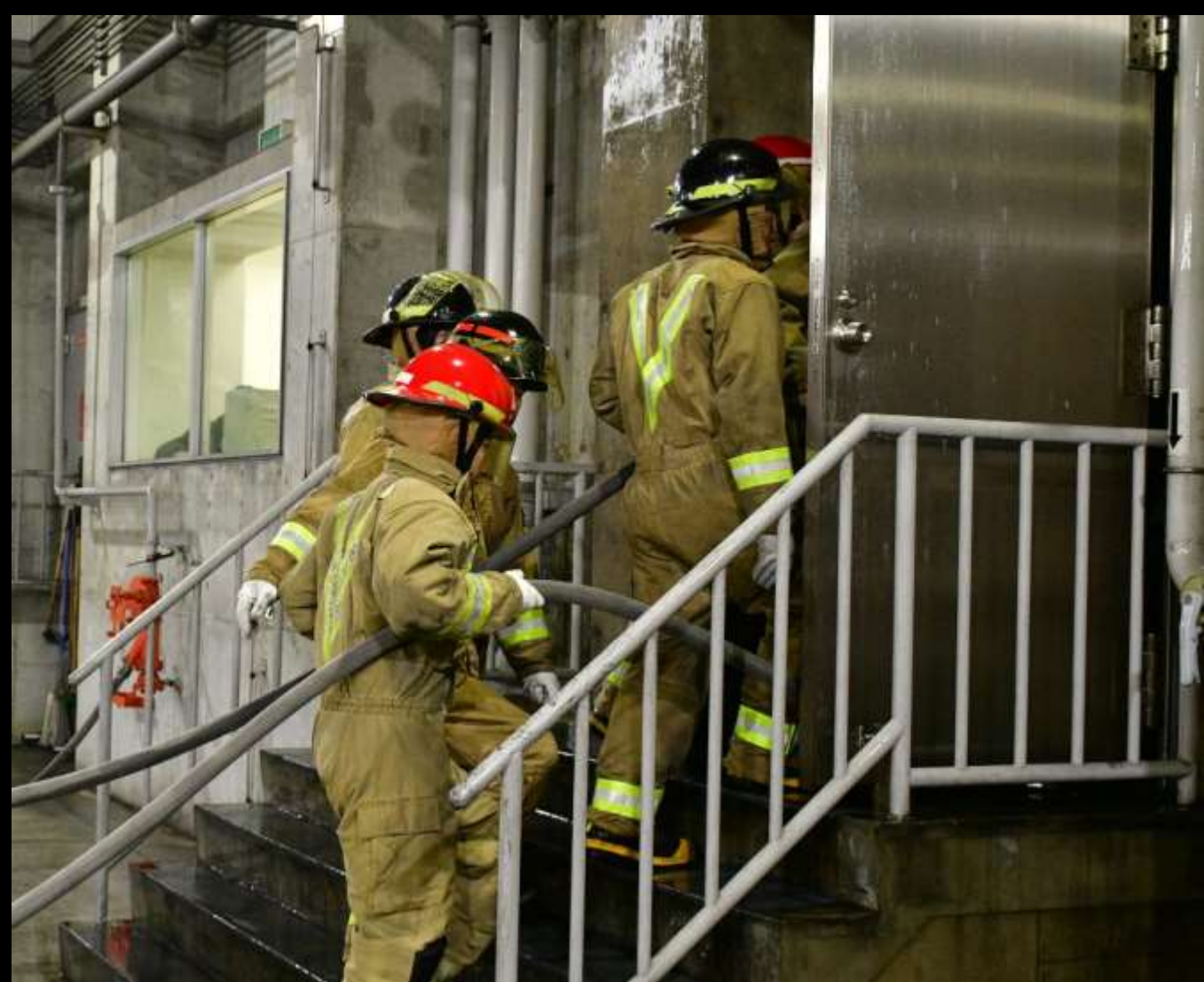




ガスマスクのような物はフェイスピースといい、顔を熱気から守り、供給される空気が漏れないようにする装備です。しっかりと締め付け密着させ、レギュレータという空気を供給させる装置を取り付ける穴の部分を手でふさぎ、漏れがないか確認します。これを怠ると隙間から空気が漏れ、ボンベの空気を必要以上に消費したり、煙や有害ガスが流入してしまう恐れがあるので危険です。



実習場の中では火をつけること以外ほぼ実際と同じ流れでの訓練を行っており、ピリッとした空気で、やる方も見る方も真剣な表情でした。



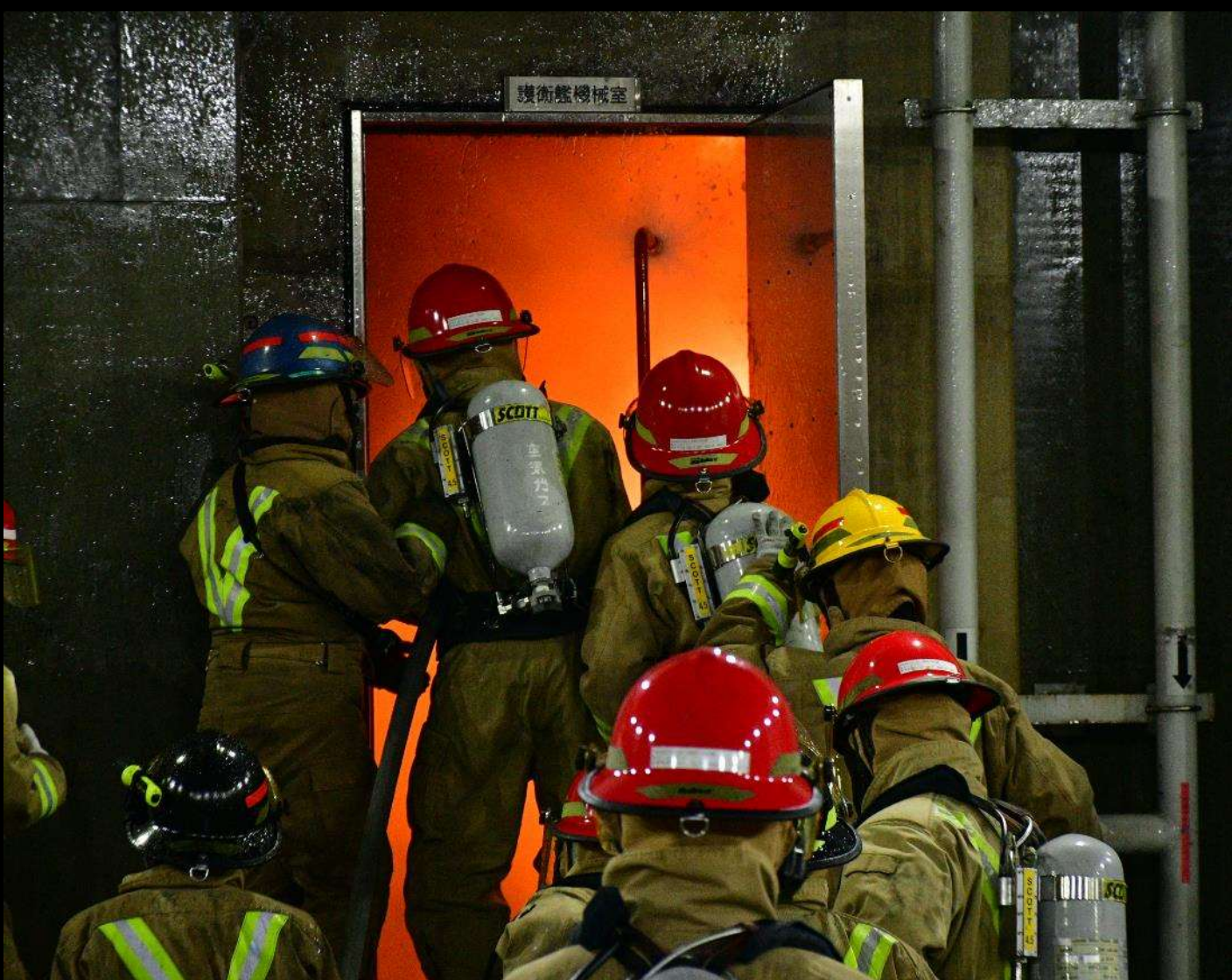
冒頭でも書いてありますが、消火作業における指揮ができることも目的の一つになり、状況が見えにくい入り組んだ場所での作業においては的確かつ迅速な報告や指示といった、チームワークが重要になってきます。

午後は実際に火をつけての訓練です。訓練の妨げになるので機械室内の様子は撮影できませんでしたが、数カ所の火元を一カ所ずつ制圧していき、残り火の確認をして消火完了、退出し、異状の有無の確認という流れで作業を実施しました。





装着の仕方に不備があると冗談抜きで命取りになります。そのせいでパニックを起こしたりした場合には自分だけでなく周りの者も危険にさらすことになりかねません。進入させる前に教官が二重三重のチェックを行い、学生の安全を確保します。





後方にいても、やることがないわけではなく、ホースのさばき方次第で、中にいる者の作業のやり易さも大きく変わるため、重要です。



火災鎮火後、定位置まで戻り、ヘルメット、フェイスピースを外し、顔が見える状態で異状の有無を確認します。



訓練場から出てきた学生の顔は、この表情。フル装備になると重量もある上に呼吸もしづらいのでかなり疲れます。そして暑い。冬場でも汗をかきます。夏場は...想像したくありません。ハードな訓練お疲れさまでした。



先に訓練終了した学生は使用後の道具の手入れをしてくれました。放置すると後が大変なんです。特に香りが。片付けも含め、お疲れさまでした。